

令和6年度保育士自己評価 公表

● 公表にあたり…

全国保育士会で作成された『人権擁護のためのセルフチェックリスト』を使用して個人の自己評価を行った。各項目の平均を出し、昨年度と比較することで保育士としての意識の変化や振り返ることで園全体としての目指していく保育の共通理解を行っていきたい。

● 保育士の自己評価を見て

(1) 子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり（昨年度 65.8%）

職員全体の平均は 81.6% だった。昨年度よりもかなり意識して子どもの環境や発達段階を理解した上で関わっている傾向が見られた。排泄などでは、年齢に応じ子どもの気持ちを汲み取るなどし、成功体験をすることで自信につながるような言葉かけを心掛けるようになった。

子ども一人ひとりを知ることから始め、気持ちに共感することを大切にしていきたい。

(2) 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉かけ（昨年度 40.0%）

職員全体の平均は 65.6% とまだ低い。集団生活の中で、時間に間に合わなかったり、他の子どもを待たせたりする時に、「急いで」「早く」といった強要の声掛けをしてしまうことが多いと感じている。保育士自身が時間、気持ちに余裕が持てるような保育計画を立て、子どもが自分で考え、自分で行動できるようなかかわりを目指していきたい。

(3) 罰を与える・乱暴なかかわり（昨年度 65.0%）

職員全体の平均は 83.3% と高めではあるが、配慮すべき点はある。子どもの危険な行為や暴力に対して、注意することは人間形成していく上で大切なことである。何故だめなのか「○○だから ○○しよう」と子どもに見通しを持った言葉かけを考えていきたい。

(4) 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり（昨年度 75.0%）

職員全体の平均は 85.5% とやや高めである。しかし、一人ひとり家庭環境が異なり、家庭環境の多様性を尊重した上で、子どもの生活、活動を保育士が保護者と共有していく必要がある。また、私たち保育士は、保護者対応する中でも教育センター的役割を担えるよう、専門的知識と安定した気持ちを備えておきたい。

(5) 差別的なかかわり（昨年度 70.0%）

職員全体の平均は 80.5% と、この項目も高めではあった。項目の中に“少食の子に、意見を聞かずに初めから少なく配膳する”といったものがあった。その部分が多くの保育士が「時間内に完食できた喜びを味わせたほうがよいのではないか」「周りの子ども達と一緒に量、配膳したもの嫌々食べさせるのはどうなのだろうか」等意見が出た。子ども達への意欲と幸福感を育むことを第一に考えるようにしたい。

● まとめ

今回初めて自己評価を全職員で行ったが、それぞれ自分の保育を振り返る良い機会となった。今まで子どもに対して行っていた声掛けが、子どもにとってはどうのように感じ取られてしまっていたのかと考えさせられることもあった。この振り返りを今後の保育に活かして、一人ひとりの子どもの心情を考えながら保育を行っていきたいと思う。